〔後撰和歌集十二戀〕おとこの物などいひつかはしける女のゐなかの家にまかりて、たゝきけれども、きゝつけずやありけん、かどもあけずなりにければ、田のほとりに、かへるのなきけるをきゝて、　よみ人しらず

足引の山田のそほづ打わびて獨かへるの音をぞ鳴ぬる

〔清輔朝臣集戀〕女をうらみて、いまはあはじとちかごとたてゝ後、もとよりけに、戀しかりければ、

あをきすぢあるかみにて、かへるのうたをつくりてかきつけてやりける、

ちがひしをおもひかへるの人をれずくちから物をおもふころ哉

〔蜻蛉日記中ノ下〕山ごもりのゝちは、あまがへるといふなをつけられたりければかくものしけり、こなたざまならではうたもなどけしくて、

おほばこの神のたすけやなかりけんちぎりしことをおもひかへるは略○下

〔延喜式八祝詞〕祈年祭略○中

皇神能敷坐島能八十島者、谷蟆能狹度極、略○下

〔祝詞考天〕他には、谷蝦蟆とあり、こゝには字を略けり、ことばは、万葉に谷具久といへる是也、さて蝦蟆が一歩の一寸にもたらぬを、ものゝ狹ききはみのたとへとす、

〔萬葉集六雜歌〕四年○天平　壬申、藤原宇合卿遣西海道節度使之時、高橋連蟲麻呂作歌一首幷短歌、略○中

山彦乃、將應極、谷潛乃、狹渡極、國方乎、見之賜而、冬木成、春去行者、飛鳥乃、早御來、略○下

〔和漢三才圖會五十四濕生蟲〕蝦蟇遐麻　螢蟇　和名加閉流　俗云加波須　雖遐人常慕而返故名之、和名亦然、略○中

黑虎　身小黑嘴脚小班、

蚼黄　前脚大後腿小班色有尾子一條、

蝦蟇種類